

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	狛江市和泉本町 4-7-35
園名	狛江市立藤塚保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

絵の具の感触を楽しみながら、いろいろな色があることを知る

<テーマの設定理由>

いろいろな色があるということを知るきっかけを楽しみながら発見できるようにするため。絵の具の感触を楽しみながら行うことで、色の不思議さを知らせていくため

2. 活動スケジュール

5月～・・・足形、手形で絵の具に触れる。
7月・・・指に絵の具を付け、スイカの線を描く
8月・・・ハンドペインティング

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

集会等で“どんな色が好き”を歌い、色を知らせる。
絵の具に触れる機会を多く取り入れ、抵抗なく触れられるようにする。

素材

- ・絵の具

道具

- ・大きめのトレイ ・模造紙

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・足形や手形を使った製作を行う。
- ・黒の絵の具を指に塗り、スイカの線を描く。
- ・黄色、水色、ピンクの三色を用意し、手の平や指につけて、模造紙に写す。
- ・模造紙の上で手を重ねて、色を混ぜる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・すぐに絵の具を触って楽しむ児、様子を見ながら触る児、端で見ている児と様々であった。
- ・保育者が1色目の上に他の色を重ねるのを見ると、歓声があがり、更に子ども達も真似して色を混ぜていた。
- ・子ども同士で手を合わせたり、体に塗ったり、色がつくことを楽しんでいた。
- ・知っている色ができると「あお」「みどり」等話していた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・色があることはパネルシアターや絵本で知らせていたが、ハンドペインティングの時は、実際に自分が触って色がつくということを喜び、楽しんでいた。絵の具に触れることに抵抗がある児も他児が楽しそうに取り組んでいる姿を見て、模造紙に映し出される模様を楽しんでいた。色への興味が更に深まり、いろいろな色の違いに気が付けたと思う。

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	狛江市和泉本町 4-7-35
園名	狛江市立藤塚保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

絵の具を使い、果物の色を自分なりに表現して楽しむ。

<テーマの設定理由>

表現遊びで「はらぺこあおむし」をすることになって小道具として一人ずつ果物を作成する際に、自分なりに表現して楽しんでもらいたいと思った為。
絵の具を使っの製作が好きな児が多いので絵の具を使って行うことにした。

2. 活動スケジュール

12月：表現遊び「はらぺこあおむし」の取り組みを始める。
1月：あおむしになりきって何度か表現遊びを楽しみ、自分が食べたい果物を決める。
果物の色に使いたい絵の具を自分で選び、カードで絵の具を広げて色の混ざりあいを楽しむ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・絵の具(赤・青・黄・緑・水色)の5色 ・画用紙 ・カード(絵の具をひろげる為使用)
・「はらぺこあおむし」の果物のイラスト ・新聞紙

じっくり活動できるよう、一人ずつ行うようにした。
ダイナミックに表現できるよう、下に新聞紙を敷いて準備をした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ①果物のイラストを見ながら、どんな色を使うと自分の果物になるかを一緒に考えたり、実際に画用紙の上に絵の具を出したりしてみる。
- ②カードを使い絵の具を広げ、絵の具が混ざって色が変わる様子を楽しむ。
- ③自分の思うような色になったか、もっと絵の具を足すか等確認しながら満足できるまで一人ずつ活動を行った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・「オレンジだから赤と黄色」のようにすぐ色を選ぶ子、好きな色の絵の具を選べるのが楽しく、あれもこれもと色を指定する子、様々だった。
- ・それなりに近い色を選ぶ子が多く、絵の具を広げた時に「すごい！」「きれい～」と喜びの声をあげる子が多かった。思ったように色が出た児は友だちや保育者に見せて感動を共有していた。
- ・4色以上を使用した児は、黒に近い色になってしまい、「あれ？」と思っていたのと違うという表情をしていた。もう一回やってみるかきいて、やりたいといった児にはもう一度できるよう用意した。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・同じ果物を選んでも、子どもによって色の組み合わせや混ざり方が違うので、出来上がりに個性が表れた。
- ・子どもによって色の捉え方がちがいで、全く見本の色とは違うものになっても気に入って喜ぶ児もいたので、好きなように色の混ざり合いを楽しむ良い機会になった。
- ・今後も製作を通し色への興味を深め、混色や自分で色を作っていくことにも挑戦する機会を作っていきたい。

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都狛江市和泉本町 4-7-35
園名	狛江市立藤塚保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

絵の具に親しみ、扱いに慣れる。

<テーマの設定理由>

・今まで色塗りに関しては、クレヨンを使用することが主だったが、絵の具にも親しみを持って扱えるようにしたかったため。また混色の様子を知る機会にしたかったため。

2. 活動スケジュール

10月：発表会(野菜のパーティー)に向けて、絵本を読み、どんな野菜があるか、またどんな色をしているかを知る。

11月：赤、青、黄、白、黒の絵の具を用意し、画用紙に単色で塗る。
その後上記の色を2色を混ぜると色がどう変化するのかを知る。
自分で混色した色で野菜の色を見つけ、色を塗る。(例：赤+黄=橙。できた橙で人参を塗る)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・絵の具(赤、青、黄、白、黒)5色 ・筆 ・画用紙 ・野菜の絵

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・ 赤、青、黄、白、黒の絵の具を用意し、単色で塗る。
- ・ その後上記の色を2色を混ぜると色がどう変化するのかを知る。
- ・ 自分で混色した色で野菜の色を見つけ、色を塗る。(例：赤＋黄＝橙。できた橙で人参を塗る)

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・ まず好きな色の絵の具を単色で画用紙に塗る。(○が書かれている中)絵の具の経験が浅い子もいたため、絵の具を筆に付ける量が多すぎて垂れたり、逆に絵の具を付ける量が足りず色がかすれて塗る子もいた。都度、絵の具の量をうまく調節するように声をかけた。
- ・ 次に2色の絵の具を混色し混ざりあう様子をワクワクした様子で観察し「うわー」「○○色になった!」「きれい」等様々なアクションがあった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今回絵の具の混色を子どもたちに体験させてみて、絵の具の扱いに少しずつ慣れ、色の混ざりに興味を持てる機会となり良かった。混色の瞬間の子どもたちのリアクションが良く、いきいきとした姿が印象的であった。今後も“こうしたらどうなる？”のような子どもたちの新たな発見や気づきが得られるような経験が出来るような保育を設定し実践していきたい。

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都狛江市和泉本町 4-7-35
園名	狛江市立藤塚保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然物の色についてじっくりと観察をし、絵の具を使って表現する。

<テーマの設定理由>

発表会の背景の木の葉をこどもたちが作った時に、落ち葉を実際に見ながら色塗りをした。その際、「葉っぱは、緑一色ではない」と気があった。製作物の返却を「葉」だけで返すのではなくせっかくなので、「木」に付けて返すことができたらと思ったこと、また、「木」の色についても子どもたちの観察でどのように描かれるのかと思い取り組んだ。

2. 活動スケジュール

11月 発表会の背景の木の葉を作る
2月 葉に合わせ木を作る

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

準備した素材、道具

白の木の方をした画用紙、絵の具、絵の具筆

環境設定

日々の遊びで（かくれんぼや、だるまさんが転んだ等）利用している、桜の木の前にテーブルを4台セットする。

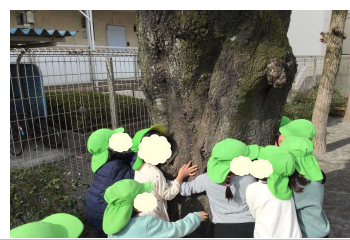
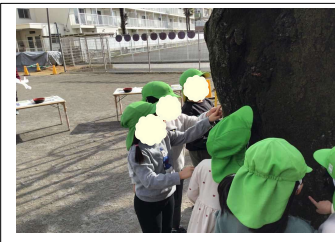
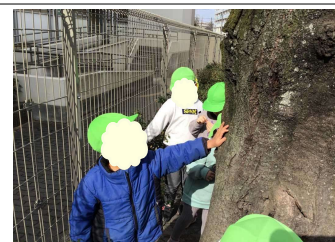
4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・発表会の「葉」を製作物として返すときに、このまま返すのが忍びなく、子ども達に相談する。
- ・子どもたちから「何かに貼ると良いよ」「木作ろうか」と出る。
- ・そこで、桜の木の側に行き、気の色や質感をじっくり観察したりさわってみる。
- ・各々絵の具の色を選び、実際に絵の具で塗っていく。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・「「木」の色ってどんな色？」と、は投げかけると「茶色」「黒」など答えが返る。
では「本当はどんな色かを確認めよう」時の側に行く。
実際に行くと、色を確認するだけでなく、形や触り心地などをたしかめていた為、「いつも（遊びで）お世話になってるし、モデルさんになってもらうからお願いしますして、ぎゅってしてみる」というと、お辞儀をして嬉しそうにに"ぎゅっ"と抱きしめていた。
- ・その後、子どもの見た色の絵の具を用意し、絵の具を塗り始める。「色がわからなくなったら、時々見るといいかもね」など声掛けをする。子ども同士の中で「ここは、黒だったよ」「ここは緑だね」「ここに、転々あるんだ」など、色を確認し合ったり、教え合ったり、互いの物を見て気づきが有ったりしていた。



5. 振り返り

「葉」が実際は緑じゃないという事をきっかけに、今回の「木」も茶色や黒一色ではなく複雑な色が混ざり合っているという事を知ることができ、イラストなどとは違う実際の自然物の色について、改めて認識する機会になった。

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちの目で見える観察眼の鋭さを改めて感じさせられた。
大人の、固定概念を超えた先の子どもの完成のすばらしさにただただ感嘆させられ、迷いなく描く子どもの姿をみて、伸び伸び描く楽しさの大切さを改めた感じた。

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都狛江市和泉本町 4-7-35
園名	狛江市立藤塚保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

白い手ぬぐいに子どもたちが自らの手で加工をし、染め上がった時の色の変化を楽しむ。

<テーマの設定理由>

自分たちの手で加工することで、自分だけのオリジナルの手ぬぐいを作ることができるということ、上手とか上手でないといったことのない、唯一無二の作品を作る楽しみを味わってもらいたいと思った。

2. 活動スケジュール

6月 運動会の遊戯として、ソーラン節に取り組む。

9月 衣装のひとつとして、頭に手ぬぐいを巻くことを決定。木綿のさらしで白い手ぬぐいを作る(保育者)。

10月 白い手ぬぐいを染料で染める。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・素材：さらし、輪ゴム、染色の染料(ベストカラー)、定着剤(ベストフィックス)
- ・道具：鍋、ガスコンロ

※火を取り扱う作業は、保育室外(事務室)にて行った。
(保育室が限られた空間である為、事故防止の観点から)

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ①子どもたち、一人一枚白い手ぬぐいに名前を書く。
- ②白い手ぬぐいに輪ゴム(8本)を自由に巻きつける。
- ③染料で染める(鍋に白い手ぬぐいと染料を入れて煮沸する)…保育者が行う。
- ④染め上がったら、一人ひとりが自分の手ぬぐいのゴムを外す。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

「白い手ぬぐいの好きな所を輪ゴムで結わえてごらん」と伝え、作業開始。
輪ゴム自体をあまりいじった経験のない子もいた。一方女兒の中には、自分の髪をゴムで結わえる子もいるので、スムーズにできる子もいた。
染め上がった布の輪ゴムをほどく時は、皆期待と共に真剣な表情になっていた。
広げた時の模様が思ってもいないような形に出たり、色に変化しているのに感動している様子だった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

自分だけのオリジナルの模様の手ぬぐいを作ることがとても楽しい経験になったようだった。作業の過程で、今の子どもたちにとって、輪ゴムというものがあまり馴染みのない素材なんだなといったことや、輪ゴムで布地をぎゅっと縛ることが、子どもたちにとって思いのほか難しいということが分かった。